



第30号

平成20年4月22日発行
千葉県漁業士会銚子支部
<事務局>
千葉県銚子水産事務所 改良普及課

全 域 発表大会

青年・女性漁業者交流大会

平成19年1月19日(土)に、水産会館(千葉市)で千葉県大会が行われました。この大会は、漁業者の皆さんが日頃から取り組んでいる資源管理や漁家経営向上のための活動成果を発表する場です。県内各地から日頃の成果を発表するために発表者が集まる中、銚子九十九里地域からは、銚子市漁業協同組合小型底曳船長会の鈴木宏康さんが参加しました。鈴木さんは、水産工学研究所と共同で行った、クラゲ混獲防除漁具開発の取り組みについて、小型底曳網船長会を代表して「小型底びき網漁業における大型クラゲ混獲防除漁具の開発ー備えあれば憂いなしー」というタイトルで発表し、房州ちくら漁協女性部とともに優秀賞に選出され、全国大会へ進むことになりました。

平成20年3月5日(水)から6日(木)にかけて、虎ノ門パストラル(東京都港区)で全国青年・女性漁業者交流大会が開催されました。第13回を迎える今回は、全国から46のグループが参加し、2日間にわたり熱心に発表や意見交換が行われました。

鈴木さんは、第2分科会「漁業経営改善部門」で発表し、農林中央金庫理事長賞をみごと受賞しました。

漁業者の皆さんの永年にわたる活動に対して敬意を表すとともに、事務局では今後も各種活動を支援していきたいと考えています。

銚 子 青年漁業士が仲間入り！

1月19日(土)に千葉県漁業士認定式が開催されました。新たに1名の青年漁業士と2名の女性漁業士が認定され、千葉県全体の漁業士は指導漁業士32名、女性漁業士12名、青年漁業士25名の計69名になりました。

新たに銚子支部の仲間となったのは、銚子市漁業協同組合に所属している谷川健一さん(32)です。谷川さんは銚子市外川町で、お父さんとともにキンメダイ漁業を営んでいます。外川青年部では最年少ながら役員を努め、周囲の信頼も厚い好青年です。認定式では、白戸副知事の励ましの言葉や神谷漁業士会長の祝辞を受け、新漁業士を代表して挨拶を行いました。挨拶の中では、先輩の努力や周囲の協力で若い自分も漁業に従事出来ることに感謝をする一方で、自分たちの子供の世代も安心して漁業が続けられるように活動していきたいと、力強く抱負を述べていました。

谷川新漁業士の加入をきっかけに、支部会活動を活発にしていきたいと考えておりますので、活動内容についてのご意見、ご希望があれば、事務局までご連絡ください。



漁業士認定式で謝辞を述べる
谷川青年漁業士

銚 子 キンメダイ標識放流調査

12月9日(日)、銚子市漁協所属のキンメダイ漁業者の皆さんが、銚子沖漁場でキンメダイの標識放流調査を行いました。当日は、6隻の漁船にキンメダイ・アカムツ研究会(会長 田辺克己漁業士、副会長 鈴木丈晴漁業士)や青年部の約30名が分乗し、釣り上げた魚に慣れた手つきで標識を付けていきました。標識尾数は278尾、平均尾叉長は30cmでした。



標識作業の様子(写真上)と
標識の付いたキンメダイ(下)

銚子沖では、これまでに5,000尾を越えるキンメダイに標識が付けられ放流されています。再捕報告は全国各地から寄せられ、千葉県水産総合研究センターのまとめによると、勝浦沖を含め千葉県沿岸で放流されたキンメダイは、遠く奄美大島や硫黄島付近、また最近では天皇海山まで広く回遊していることが判明してきました。標識放流は、まだまだ不明な点が多いキンメダイの移動経路や成長を知る上で、きわめて重要な調査になっています。

標識の付いたキンメダイが再捕されたときは、水産事務所までお知らせください。

そ の 他 新任の挨拶

このたびの人事異動により、事務局である銚子水産事務所の職員が変わりました。

前任の鈴木所長が県庁農林水産部水産局水産課へ異動になり、振興室長として水産物のブランド化推進などをおこないます。また、荒井普及指導員も水産課へ異動になりました。後任には漁業資源課から小瀧所長と水産総合研究センター加工流通研究室から久保普及指導員が着任いたしました。

小瀧事務所長
このたび所長として赴任した小瀧です。県に採用された当初4年間は、勝浦にある栽培漁業センターでヒラメ種苗を作っていましたが、その後は漁業調整などを担当してまいりました。今後も沿岸・沖合漁業振興のため微力ながら頑張ってまいります。どうぞ、よろしくお願いいたします。



久保普及指導員
荒井普及指導員のあとを引き継いで赴任いたしました。普及区は外川以外の銚子市と漁業士会などを担当します。
銚子水産事務所は2度目で、以前の痩せていた頃の顔を見たことがある方もいるかもしれませんが、中身は同じですので、またどうぞよろしくお願いいたします」

